

【平成27年度】

「奈良県の伝統工芸号」

奈良を代表する伝統工芸である高山茶釜・奈良筆・赤膚焼・吉野手漉き和紙等は、永い歴史の中で培われた技術と伝統を現代に伝え、私たちの生活に潤いを与えています。中でも「国指定伝統的工芸品」である「奈良筆」は、今から1200年前、唐に渡った空海が筆作りの技法を日本に持ち帰り大和の国で広めたと言われており、また、同じく「国指定伝統的工芸品」である「高山茶釜」は奈良の地において茶道の礎を築いた村田珠光の侘び茶の普及と共に発展し、室町後期から約500年の歴史を持っています。これらの歴史深い奈良県の伝統工芸品を全国の方々に興味を持って頂く方法の一つとして、ラッピングトラック事業を実施致しました。



「漢方薬ゆかりの地号」

近年、予防医学の意義が再認識されつつあり、「未病を治す」漢方が世界的に注目を集めています。漢方や生薬製剤について、奈良時代にまで遡る文化的・歴史的厚みや、地場産業として配置薬業が発展してきた奈良県。なかでも生薬としては、代表的な婦人薬であるヤマトウキは17世紀中頃から大和などで自生していたものを栽培し利用されてきました。また、奈良時代に渡来した薬用植物のシャクヤクやアカヤジオウは、奈良県に縁のある薬草で、ジオウは橿原市に「地黄町」という地名が今なお残っています。こうした奈良県に古くからゆかりのある生薬の栽培と普及に力を注ぐ奈良県を全国にアピールする方法の一つとして、ラッピングトラック事業を実施致しました。



【平成26年度】

「奈良の木ブランド号」

奈良の木をつかおう！

この森林は、吉野郡川上村にある樹齢300年近いスギの人工林です。日本の三大人工美林の一つに数えられ、吉野材として高級建築部材などに利用されてきました。

奈良県は、吉野材に代表される高級材の産地として、古くから建築用材を専門に製材する工場が各地に集積しています。

しかし、近年、住宅着工戸数の減少や住宅様式の洋風化などの影響で、これまで得意としてきた高級建築部材が売れない厳しい状況にあります。

そのため県では、これまでの「高級材を選んで出す林業」から「根本の太い部分から細い幹まで全てを搬出して多用途に供給する林業」へ転換し、製材・加工・流通での受け皿の確保と競争力ある木材産業を構築するとともに、マーケットでの県産材製品の流通拡大を実現するための取り組みを進めることとしています。

このため、建築物などでの利用拡大を進めるためのPR活動を実施し、高級材の需要が見込める首都圏等への売り込みにも力を入れています。

これらの取り組みを全国に発信していく方法の一つとして、「奈良の木をつかおう！」と題したラッピングトラック事業を実施致しました。



「春日大社式年造替号」

春日大社 第六十次式年造替

春日大社は、奈良時代の768年に鹿島神宮の武甕槌命、香取神宮の経津主命と枚岡神社の天児屋根命・比売神をお迎えて御蓋山のふもとに創建されました。

「式年」とは「定まった一定の年限」、「造替」とは「社殿を造り替える」という意味です。神さまが引っ越しされることを「遷宮」といいますが、春日大社では本殿の位置は変えずに、建て替え、あるいは修復を行うため「造替」といいます。

創建以来1200年にわたって御殿の建て替えと御神室の新調がほぼ20年に一度、繰り返し行われてきました。

第六十次という区切りとなる式年造替の行事を全国に情報発信する方法の一つとして、ラッピングトラック事業を実施致しました。



(平成28年11月6日まで走行)

第34回全国豊かな海づくり大会～やまと～

主 催 豊かな海づくり大会推進委員会
第34回全国豊かな海づくり大会奈良県実行委員会
後 援 農林水産省、環境省
開 催 日 平成26年11月15日（土）、16日（日）
開催場所 吉野郡大淀町、吉野郡川上村、五條市、橿原市

大会テーマ

ゆたかなる 森がはぐくむ 川と海

ラッピングトラック走行の趣旨

公益社団法人奈良県トラック協会は、物流の基幹産業であるトラック運送事業の適正な運営を確保し、事故防止を図りながら、事業の社会的地位の向上を目的としています。

第34回全国豊かな海づくり大会の協賛団体として、奈良県のさかな（きんぎょ、あゆ、あまご）や、安全性優良事業所（Gマーク）をラッピングしたトラックが走行しました。



（平成26年11月16日まで走行）